

コベルコ建設機械ニュース

File.40

通天閣

歴史的建造物誕生の
秘密を探る!





歴史的
建造物誕生の
秘密を探る!

File.40

なにわ 大阪のランドマークにして浪速の人々の魂 通天閣は二度蘇る

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影
text by Mikihiro Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

大阪のシンボルの1つである「通天閣」が、実は二代目だということをご存じだろうか。戦時に一度姿を消し、その後再建されるも存亡の危機にさらされ蘇った……。今回は、その誕生と二度の復活を遂げた通天閣の歴史をひもとく。

東洋一の展望塔は凱旋門+エiffel塔!?

大阪さつての歓楽街である新世界が誕生したのは1912(明治45)年のこと。今でこそ申カツを扱う店舗がひしめく大阪屈指の観光地だが、海外旅行が一般的ではなかつた当時、人々に外国の雰囲気を感じてもらう目的で作られた、異国情緒豊かな建物が建ち並ぶテーマパークのような街であつたといふ。中

心部には遊園地があり、パリの凱旋門の上にエiffel塔を載せたような奇抜なデザインの塔があつたが、これこそが初代の通天閣だ。高さ75mは東洋一。展望台からの景色見たさに、大正時代には梅田や難波といった繁華街にひけをとらないほどの人出があった。ところが1943(昭和18)年、新世界はそのランドマークを失ってしまう。隣接

する映画館の火災で通天閣は類焼。これを機に通天閣は解体され、さらには大阪空襲で新世界もまた焼け野原となつた。終戦後、大阪は復興に向けて歩み出すが、交通の要衝ではなく新世界は復興が遅れた。にぎやかだった戦前の風景が嘘のように荒れ果てた新世界では、いつしかこんな声がささやかれた。「通天閣さえあれば、きっと新世界は元気になる——」。

新世界商店会、執念の再建劇

解体から10年近くが経ち新世界にも人が戻つたが、通天閣の再建話は持ち上がりつては消えていた。ところが、高さ180mの名古屋テレビ塔が完成したニュースが日本全国を駆け巡ると、新世界の商店店主たちの魂に火が点いた。1954(昭和29)年に新世界町会連合会の役員らが立ち上がり、周囲に出资を呼びかけ、用地の確保に動いたのだ。初代通天閣があつた場所はすでに民家が建ち、塔を建てただけのスペースはない。大阪市にかけあい何度も陳情を重ねた末、公園と公道の上に塔を建てることが認められた。ただ、

肝心の建設資金は思うように集まつていなかつた。商店主らは半ば泣き付くように建設会社へ相談すると、足りない費用を出資してくれるということでお話をまとまつた。常にギリギリの状況だったが、新世界の人々の執念で建設にこぎ着けた。

設計したのは、名古屋テレビ塔を手がけ、のちに東京タワーを世に送り出すことになる内藤多仲早稲田大学教授。柱と柱の間に耐震壁を設ける地震に強い建物の設計が得意で、「塔博士」の異名をもつ人物だ。実際、内藤が東京で設計した建物は関東大震災でも倒壊を免れている。初代が姿を消してから13年後の1956(昭和31)年、姿形はまるで異なるが高さ103m(*)の展望塔が完成した。当時、建設現場近くで遊ぶ少年たつた通天閣觀光の西上雅章社長の記憶は今も鮮明だ。

「地元のみんなが喜んでいたことを覚えていました。しばらくして觀光客も来るようになり、かつてのにぎやかさが戻つてくる予感はありました」

二代目通天閣は予想を上回る人気で、開業当初は年間100万人以上が訪れた。復興

この地でしか味わえない、その場所だから 楽しめる情報をお届けします。
大阪市南部編

あのな巻・あのね巻



佐兵衛すし 本店

06-6631-4541

ユニークな名前の巻物は人々別の名前だったが、「あのな」が口癖のお客さんがよく注文したので、いつしか「あのな巻」に。エビ、イカ、うなぎなどの海鮮に、厚焼き玉子にシイタケ、かんぴょうなどの具がこぼれんばかりに海苔に包まれ、「寿司飯がない分、具の味がダイレクトに感じられる」と評判だ。寿司をつまみにするとお腹いっぱいになるという人も、これならいくつもつまめそう。あのな巻に数の子が入ると「あのね巻」と名前が変わる。(あのな巻450円、あのね巻550円・各税込み)



くいだおれ太郎プリン



(株)太郎フーズ
☎ 06-6449-4489



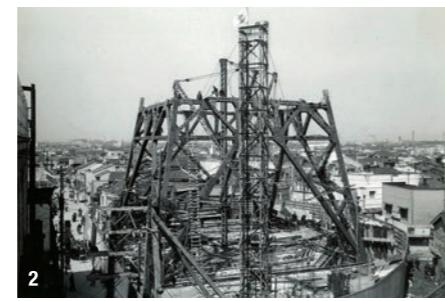
スをかけてほおばると、濃厚なクレーブリュレ風の本格的な味わいが口いっぱいに広がる。(3個入1,150円・税込み)

天王寺動物園

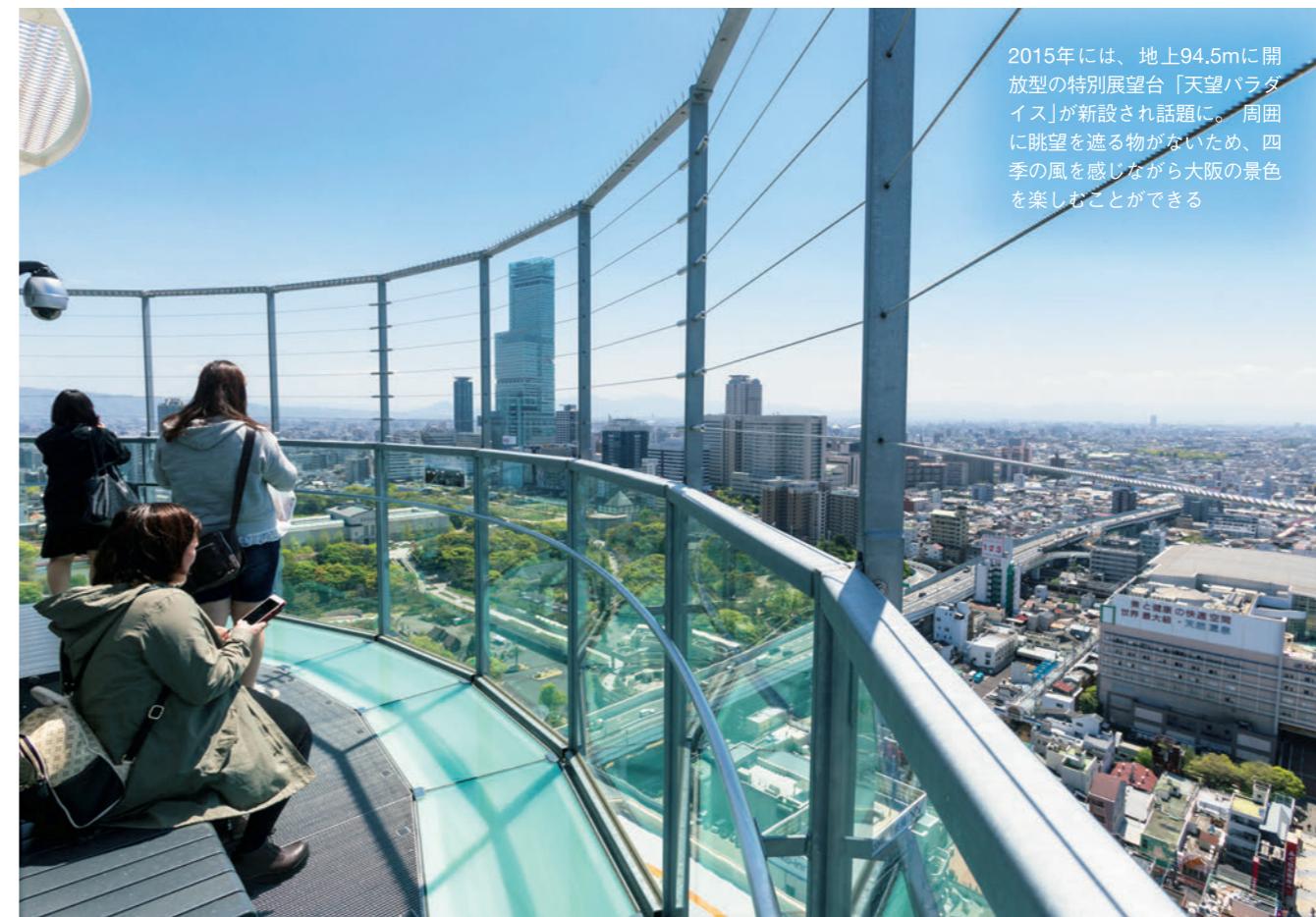


天王寺動物園
06-6771-8401

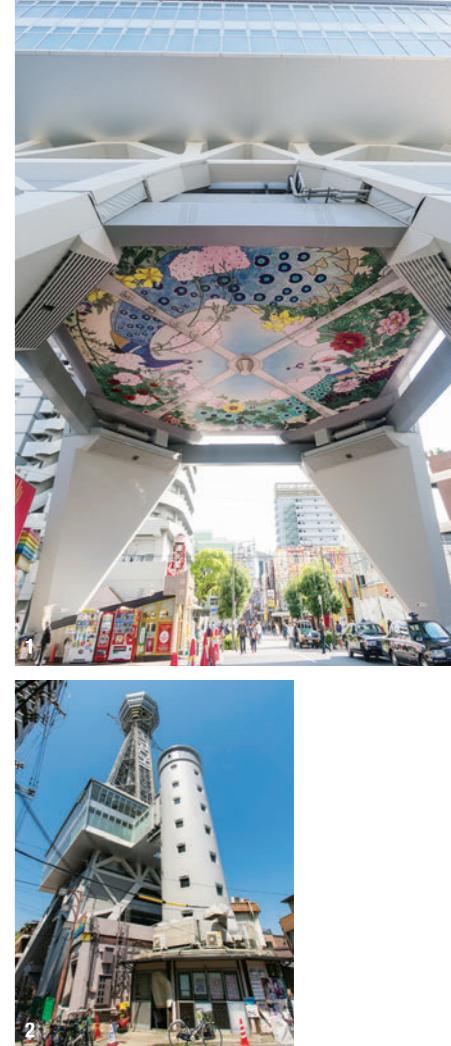
1915（大正4）年開園の歴史ある動物園では、約11haの敷地で約200種1000点の動物を飼育。キリンやライオンのいる「アフリカサバンナゾーン」、アジアゾウが暮らす「アジアの熱帯雨林ゾーン」など、本来の生息地の景観を再現した「生態的展示」を取り入れ、動物の自然な姿を観察できる。毎日開催されている「ごはん・おやつタイム」では、動物たちのユニークな行動を見られるかも。（大人500円、小中学生200円、未就学児無料）



1.パリの凱旋門の上にエッフェル塔を載せたデザインだった初代通天閣 2.建設中の二代目通天閣。テーマパークのような街の中に建設された二代目とは違い、二代目は公道の真上に建てられた



2015年には、地上94.5mに開放型の特別展望台「天望パラダイス」が新設され話題に。周囲に眺望を遮る物がないため、四季の風を感じながら大阪の景色を楽しむことができる



1.橋脚の真上を飾る色鮮やかな天井画は、戦前の初代通天閣にあったものを復刻。2015年に72年ぶりに蘇った 2.世界で初めて「円形エレベーター」を導入するなど、先端技術を駆使したタワーであった。エレベーターは今も現役

再び訪れた危機 「おもろい」に活路を求める

二代目開業から約10年経つと、通天閣への客足は徐々に遠のいた。理由はいくつかある。テレビの普及により、新世界にたくさんあつた映画館が閉館。その多くがパチンコ店に替わり、街の雰囲気がガラリと変わった。



1.2012年、大阪にゆかりのある豊臣秀吉の金の茶室をイメージして展望台は黄金色に統一された 2.内装が金一色に塗装された展望台に鎮座するビリケンさん。投げ出した足をなでるとご利益があるという

歴史的 建造物誕生の 秘密を探る！

こうした努力が功を奏し、来塔者は回復。高さや眺望ではなく、「おもろい」を売るコンセプトは今も継承されている。

2010年（ツー・テン）には、通天閣が130mのロボットに変身するという設定の「通天閣ロボ」を考案。2012年の100周年には、豊臣秀吉の金の茶室にならい5階展望台内部をすべて金色に塗り替えるなど、大阪らしさを打ち出した「おもろい」話題を提供。年々来塔者数を伸ばしている。

「地域住民の執念」で再建され、「発想の転換」でピンチを乗り切った展望塔は、大阪の人にとってではなくてはならないシンボルであることは間違いない。

こと。近隣で暴動が発生し、新世界に“怖い町”というイメージがついたこと。そして日本経済を混乱させたオイルショックだ。電気の無駄使いを理由に通天閣のネオンが消え、魅力に乏しくなった。1975（昭和50）

優れたパワーで 作業の生産性を高め 林業の未来を切り拓く

SK225SR（林業用カスタム機）

山田高弘

＝取材・文

II浦泰章＝撮影



2台同時導入したSK225SRの1台には、フィンランドのKETO社製ハーベスターを装着。伐倒や枝払い、玉切り作業をパワフルにこなす



SK225SRは取材時、宮崎県中北部の西都市三納／三宅地区にて、市が管理する山林の伐採に従事。本現場では8,000m³の伐採を予定しているが、大型機導入によりすでにその8割の作業を終えていた



3.同時に導入したもう1台のSK225SRにはグラップルを装着。伐倒した木材の運搬・集材に活躍していた 4.左から西日本コベルコ建機の見河、佐々木さん、販売代理店である宮崎ディーゼル商事の吉田さん



1.2.現場のリーダーを務めるオペレーターの長友康さんは、SK225SRが搭載するコベルコ独自の冷却システム「iNDri」を評価。「2日に1回フィルタを掃除するだけなので、メンテナンスの負担が減りました」



5.ともに20代の若手オペレータ、藤原健祐さん（左）と神田智信さん（右）。SK225SRについて、藤原さんは多数の木材をつかめるパワーを、神田さんは旋回や走行時のスピード感を、それぞれ高く評価する 6.仲睦まじい社長ご夫婦。奥様の美穂さんは、創業時より事務を一手に担い、社長を強力にサポート

いました。しかし昨今では、取引先の大手製材所が輸出向けに生産規模を拡大したり、バイオマス発電が盛んになるなど、宮崎県産の木材の需要が大幅な増加傾向にあり、明るい兆しも見えています」（佐々木さん）

しかしここで問題となるのが、働き手の不足だ。少ない人数で山の仕事を行うには効率性が重要。そこで佐々木さんが出した答えが、重機の有効活用だった。同社では、創業間もない14年にコベルコのSK135SRを導入。林業専用アタッチメントを駆使した作業で人材不足を補いつつ、生産性も向上させてきた。またこうした成果に加え、

17年4月、SASAKI FORESTRYではSK135SRより1クラス大きなSK225SRを2台同時に導入した。林業用のベースマシンとして一般的な13t機ではなく、20t機を選んだ理由について、佐々木さんはこう語る。

「少ない人数でより効率的に作業を行うためには、機械の大型化が必要でした。実際、グラップルを装着したSK225SRは、持ち上げるパワーが13t機とは比べものになりません。40～50cmの木材なら倍の本数をまとめて運べるうえ、車体の安定性が高いので、より太い木材もしっかりとつかめます」

オペレーターの長友康さんも、「SK225SRならではのパワーは、グラップル装着時の運搬能力だけではなく、ハーベスターによる切断作業でも実感している」と評価。伐倒や枝払い、

万一の際には山中の現場にも迅速に駆けつけて対応をする販売代理店、宮崎ディーゼル商事の存在もあり、コベルコ機への信頼は厚くなっています。2013年の創業時から重機の重要性を認識し、法人化を機にSK135SRを導入。17年4月には20tクラスベースマシンを2台同時に導入するなど、大型機械によるパワーを活かした作業スタイルで、業務の効率化を推進している。

玉切りなどの作業がよりスピーディになつたという。「アームの長さにもメリットを感じています。13t機よりも長い分、より広範に伐採作業が可能。今までハーベスターを装着した13t機では、年間約1万5000m³の木材を生産していましたが、20t機なら2万m³まで生産可能になると想定しています」（長友さん）

20tクラスのコベルコ機でも、燃費性能は健在だと、佐々木さんは太鼓判を押す。「レンタルで他社メーカーの重機を使用することもありますが、木さんは太鼓判を押す。『レンタルで他社メーカーの重機なら半日は長く燃料を保てます』

生産性の向上から低燃費によるコスト削減まで、現在の林業の課題に大きな成果をもたらしているコベルコ機。SASAKI FORESTRYが切り拓く林業の未来を、今後もその高い能力で支援していくだろう。

いました。しかし昨今では、取引先の大手製材所が輸出向けに生産規模を拡大したり、バイオマス発電が盛んになるなど、宮崎県産の木材の需要が大幅な増加傾向にあり、明るい兆しも見えています」（佐々木さん）

しかしここで問題となるのが、働き手の不足だ。少ない人数で山の仕事を行うには効率性が重要。そこで佐々木さんが出した答えが、重機の有効活用だった。同社では、創業間もない14年にコベルコのSK135SRを導入。林業専用アタッチメントを駆使した作業で人材不足を補いつつ、生産性も向上させてきた。またこうした成果に加え、

17年4月、SASAKI FORESTRYではSK135SRより1クラス大きなSK225SRを2台同時に導入した。林業用のベースマシンとして一般的な13t機ではなく、20t機を選んだ理由について、佐々木さんはこう語る。

「少ない人数でより効率的に作業を行うためには、機械の大型化が必要でした。実際、グラップルを装着したSK225SRは、持ち上げるパワーが13t機とは比べものになりません。40～50cmの木材なら倍の本数をまとめて運べるうえ、車体の安定性が高いので、より太い木材も

しっかりとつかめます」

オペレーターの長友康さんも、「SK225SRならではのパワーは、グラップル装着時の運搬能力だけではなく、ハーベスターによる切断作業でも実感している」と評価。伐倒や枝払い、

玉切りなどの作業がよりスピーディになつたという。

「アームの長さにもメリットを感じています。13t機よりも長い分、より広範に伐採作業が可能。今までハーベスターを装着した13t機では、年間約1万5000m³の木材を生産していましたが、20t機なら2万m³まで生産可能になると想定しています」（長友さん）

20tクラスのコベルコ機でも、燃費性能は健在だと、佐々木さんは太鼓判を押す。

「レンタルで他社メーカーの重機を使用することもありますが、木さんは太鼓判を押す。『レンタルで他社メーカーの重機なら半日は長く燃料を保てます』

生産性の向上から低燃費によるコスト削減まで、現在の林業の課題に大きな成果をもたらしているコベルコ機。SASAKI FORESTRYが切り拓く林業の未来を、今後もその高い能力で支援していくだろう。

●今回の訪問先は
株式会社
SASAKI FORESTRY
所在地／宮崎県児湯郡
木城町大字椎木4739-6
☎ 0983-32-2817
創業／2013年
事業内容／林業(素材生産)
従業員数／11名

いまだに「キツイ」「汚い」「危険」といった、いわゆる「3K」を連想されることが少くないという林業。そうしたイメージを払拭し、新しい林業の姿を体現しているのがSASAKI FORESTRYだ。林業の会社では珍しい欧文表記にした社名には、「これまでにない新たなことに挑戦したい」という、代表取締役の佐々木章仁さんの強い想いが込められている。

「この仕事に従事する若者たちが安心して生活できるよう、林業を未来のある成長産業として確立し、業界全体を盛り上げていきたいのです」（佐々木さん）

そのため同社では、「山は50年育てる農業」という考えのもと、伐採後の山に木の苗を植林する再造林事業を積極的に推進。

さらに担い手の育成にも注力するなど、林業という仕事を次世代へとつなげる努力を続けてい

る。実際に従業員の半数は同社から林業のキャリアをスタートさせた20代の若者たちだ。

これまで輸入材の影響もあり、日本の林業は低迷が続いている



高性能林業機械の活用で
人材不足の解消を

Kスキャン
開発ストーリー

機械の状況を遠隔で見守り、安定稼働を支援

トラブルの前兆を察知し、
事前に故障の芽を摘む
予防保全を実現中川智廣
企画本部 ICT推進部
ICTプロダクトグループ

01年入社。本プロジェクトには、全国のモニタによる評価段階から参画。「実際の現場におけるショベルのさまざまな使われ方のなかで得た“気づき”を、システムのプラッシュアップにフィードバックしました」



マシンとサーバ間のスマートな情報流通を推進

コベルコのショベルは、早くから位置情報・燃費情報をはじめとする稼働情報をユーザーに提供する「MERIT」システムを導入。ユーザーの稼働管理を支援とともに、サービス活動の効率化にも活用してきた。そして、2016年に販売を



●今回のストーリーは
Kスキャン
現場で活躍するショベル各部のデータを日々見守ることにより、トラブルの発生を事前に予測。問題が起こる前に最善の対応を図ることで耐用性をさらに高め、安定稼働をサポートするコベルコ独自のIoT (Internet of Things) を駆使した予防保全システムだ



Kスキャンによる『状態観察』と『健康診断』は、数値やグラフで可視化。お客様への訪問前に、サービス担当者と作業内容の確認やメンテナンス方針のすり合わせが容易になる

データに基づくサービス提案で信頼を深める



松本竜馬
西日本コベルコ建機
九州支社 福岡営業所
福岡工場 工場長

94年入社。「Kスキャンにより、広範なサービス担当エリアのなかで迅速かつ正確なサービス対応ができるようになりました。今後は、現場に伺うスタッフのスキルアップなど、サービスの質向上も目指しています」

9年入社。「Kスキャンにより、データをもとにサービス提案を推進。「GPS情報の活用は訪問の効率化につながりました。また、視覚的に情報を伝えられるタブレット端末を用いた説明で、お客様の理解や互いの絆も深まっています」

西日本コベルコ建機の福岡工場で、Kスキャンを運用する松本竜馬は、実際の活用シーンを

経済ジャーナリスト

和上陽子

東京外国语大学卒業後、日本経済新聞社に入社。日経ホーム出版社(現在の日経BP社)月刊誌「日経マネー」の編集を経て、退社。独立後は、経済・金融の各種専門誌などに寄稿するなど、経済ジャーナリストとして活躍中



クイズを解けば
“いま”が分かる
この記事に
注目!

近頃気になる日経媒体の記事をピックアップ。
その報道の背景にある「時代性」を探るコーナーです。

まずはクイズに挑戦! 答えは解説文中にあります。
楽しみながら“現代を知るヒント”を探してみませんか?

Q1.

キッコーマンが導入した在宅勤務制度。 月何回まで在宅勤務が許される?

- a. 月1回 b. 月4回 c. 月8回 d. 月12回

「出勤せずに自宅で仕事OK」 働き方が変わる深い理由

食品業界で新たな勤務制度の導入や拡充が相次いでいる。

「キッコーマンは4月から、全社員を対象に在宅勤務制度を導入する」(日本経済新聞電子版2017年2月4日付記事より)。本体と関連会社などの社員約1300人が対象で、**月4回**まで在宅勤務を認める内容だ。

「時間単位の年休制度は昨年11月から導入。半日単位だった従来の制度に比べ、柔軟に利用できるようにした」(同)とのこと。

キッコーマンと同じく、キユーピーでは、「オフィス以外で働くことができるテレワーク制度で、週2日までと定めている上勤務制度を導入。さらにカルユーピーも16年7月から在宅限日数を4月以降に撤廃する方針だ」(同)。テレワーク制度とは、IT(情報技術)機器を使い、自宅以外でも働ける仕組み。味の素も同様の制度を導入する計画を打ち出しているという。

こうした動きの背景には、業界が抱える切実な問題がある。

40~50歳代の人にのぼる。そのなかでは

「消費者のニーズは急速に変化・多様化している」。キユーピー

の三宅峰三郎社長(現・相談役)は、現在の国内市場について、こう表現する(同)。熾烈な商品競争に勝ち残るには、社員の働きやすい環境を整え、多様かつ優秀な人材の確保が必要だ。だがそれは容易ではない。なぜなら、離職の理由が時代とともに変わりつつあるからだ。

以前は離職といえば「結婚」「出産」「育児」という事情が多かった。だが近年は、「介護」という理由も浮上。厚生労働省が16年8月に発表した雇用動向調査結果によれば、15年の離職者数は約713万人。「介護・看護」を理由とする者は全体の1・3%で、約9万3000人にはのぼる。

離職者も少なくない。

ある程度の区切りがある出産や育児に対して、介護には「いつまで」という明確な区切りがない。企業の中核を担うはずの世代が、家庭の事情で職場を離れてしまう。そうならないための「新たな働き方」を各企業が真剣に模索しているのだ。

在宅勤務にテレワーク。現場第一の土木・建設業界からすれば、あり得ない話だろう。けれども事務方から現場まで、働く者一人ひとりの事情や価値観は時代の流れとともに変わっている。その現実に目を向け、できることから対応を考えるのは決して無為ではない。小さな変革が大きな効果につながることもあるのだから。

Q2.

不動産大手の大京グループが現場の指示支援に導入した「スマートグラス」とは、どんな端末？

a. メガネ型 b. ボールペン型 c. ネクタイピン型 d. ペットボトル型



平戸孝之=イラスト
Illustration by Takayuki Hirato

技術者の高齢化により人手不足が進む業界で、効率よく若手に技術を伝えるためにICT（情報通信技術）を活用する試みが盛んだ。

「大京グループは21日、**メガネ型**のウエアラブル端末『スマートグラス』を若手育成などに活用すると発表した」（日本経済新聞電子版2017年4月22日付記事より）

スマートグラス。直訳すれば「賢いメガネ」だ。これはメガネ

型の端末にカメラやマイク、GPS（全地球測位システム）などのセンサを搭載したもので、インターネットにも接続できる。

大京グループでスマートグラスを導入するのは、ビル管理などを手がけるオリックス・ファシリティーズ。作業の流れはこうである。ビル管理の現場で若手の点検者がスマートグラスをかけると、離れた場所にいるベラン技師のパソコン画面に、若手が見ている光景がそのまま映し出される。

ベテランは映像から確認や修理が必要な箇所を見極め、若手に音声や文字、画像で指示することができるというわけだ。

同グループは約2000万円かけて若手育成用に4台検査業務用に3台導入し、通常の点検業務でも異常の見落とし防止などに活用する

スを導入するのは、ビル管理などを手がけるオリックス・ファシリティーズ。作業の流れはこうである。ビル管理の現場で若手の点検者がスマートグラスを

かけると、離れた場所にいるベテラン技師のパソコン画面に、若手が見ている光景がそのまま映し出される。スマートグラスがスマート的な役割も果たすため伝票記入も不要。その結果、作業効率が25%向上したというデータが公表されている。

さて、スマートグラスのほかにも現場を支援するICTは色々とある。コベルコ建機が提供する3Dマシンガイドンス「ホルナビ」も好例の1つだ。

さて、スマートグラスのほかにも現場を支援するICTは色々とある。コベルコ建機が提供する3Dマシンガイドンス「ホルナビ」も好例の1つだ。油圧ショベルにアーム角度やピッチ＆ロールなどの各種センサを取り付けて現場の状況を常

予定。「ICTを活用することで専門技術を伝え、サービス品質の向上を図る」（同）のだという。

作業員がスマートグラスに映し出された荷物の位置情報や作業手順などを見ながら仕分け作業にあたる。両手が自由に使え、スマートグラスがスマート的な

施工ができるという。

さらに注目すべきは、「ホルナビ」は操作方法をできる限り簡易にしたシステムなので、経験の浅いオペレーターにも容易に扱えるという点。つまり人材育成という目的にもしっかりと結びついているのだ。

人手不足の建設業界にあって、効率的かつ適切な技術の継承は急務。そのキーワードたる「ICT」からいつそう目が離せない。

Wind 3 from
福岡
Fukuoka

小倉工場で展示会を開催

2017年5月20・21日に、西日本コベルコ建機の小倉工場で、「新時代の幕開け!! 春の大展示会2017～コベルコタウンへようこそ～」が開催されました。

16年11月に竣工した小倉工場など、北九州地区のコベルコ建機グループが集結する総合拠点のお披露目も兼ねたこのイベント。新型機やホルナビ搭載機を筆頭に、業界最先端技術をアピールする新型ハイブリッド機、「eマグ」搭載機などを展示しました。また、ホルナビ搭載機やSK550D-10NEXTアタッチメントの脱着といったデモンストレーションも実施。来場者の注目を集めました。

2日間で1,300名以上が来場したイベントは、大盛況のうちに幕を閉じました。



1. ホルナビ3Dマシンガイダンスを使用したデモンストレーションを実施 2. お客様の注目を集めたNEXTアタッチメントの脱着実演の様子

Wind 1 from
タイ
Thailand

ベースに展示されたSK50P



Wind 5 from
新潟
Niigata

Wind 4 from
福島
Fukushima

「ホルナビ・ジョブサイト新潟」を開設！



ホルナビ・ジョブサイト新潟にて稼働する、ホルナビ3Dマシンガイダンス搭載のSK200-9

コベルコ建機は、ICT建機のメリットを体験・実感できる仮想現場「ホルナビ・ジョブサイト新潟」を新潟県新潟市に開設。2017年6月19日より運営をスタートしました。

ホルナビ・ジョブサイトとは、実際と同等のICT施工を体験・実感できるとともに、3次元測量や3次元設計データの作成など、ICT施工に関する作業の習得も可能なICT建機体験施設。同年4月にオープンした高松に続き、2カ所目の設置となりました。

ご利用をご希望する方は、最寄りのコベルコ建機営業所までお問い合わせください。

リニューアル記念！ 福島営業所で展示会を開催

東日本コベルコ建機の福島営業所にて、2017年6月3・4日の2日間、新社屋リニューアル記念感謝祭としての展示会が行われました。

当展示会では、ホルナビ3Dマシンガイダンスを搭載したSK200やSK200H-10、「eマグ」搭載のSK260DLCをはじめとした新機種を多数展示。さらに、WOODY社製ハーベスタを搭載したSK170-10林業仕様機のデモンストレーションも実施。木材を速やかに造材する作業で来場者の目をくぎ付けにしていました。

イベントには両日で400名以上のお客様がご来場。大成功の催しとなりました。



1. ホルナビ搭載機を展示したブース
2. 機械と先端アタッチメントの大型化というお客様ニーズに対応し、注目を集めたSK170-10林業仕様機

Wind 2 from
愛知
Aichi

中部支社で 秋の大展示会が開催決定!!

今年も西日本コベルコ建機の中部支社で、秋の大展示会が開催されることになりました。新商品をはじめとした多数の実機展示や、見ごたえのあるデモンストレーションなど、楽しい企画を多数ご用意しております。皆様のご来場を、スタッフ一同心よりお待ちしております。

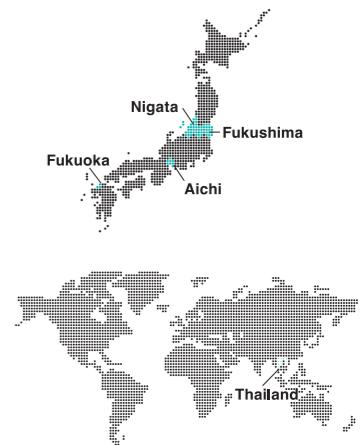


昨年行われたイベントの様子



[コベルコの風]

日本全国、そして世界各国での
コベルコの活動をリポート！



出展機に関心を
示すお客様



今回、東南アジア地域で初開催された「INTERMAT」に参加したことは、同地域におけるコベルコ建機のプレゼンスアップを図る貴重な機会に。これをきっかけとして、東南アジアでの市場拡大を今まで以上に進めてまいります。

[開催概要]
日時：2017年9月9日(土)、
10日(日)
会場：西日本コベルコ建機(株)
中部支社
愛知県東海市南柴田町
ハの割138-18
☎ 052-603-1201